

手術室における 安全への取り組み

手術看護認定看護師 松本 恵

いまのコロナ禍においても、当センターでは多くの患者さんに安心して手術を受けていただけるよう万全の体制を整えています。手術を受けることは、患者さん、ご家族にとってとても大きな出来事であり、生活や暮らしが大きく変わることにも繋がります。私は『手術を受ける患者さんやご家族に対して安全と安楽を保障する』ことを活動目標として、術中だけでなく術前や術後も含めた看護を実践しています。

侵襲の大きい医療行為が行われる手術室において、患者さんの安全を確保し、推進するためには、適切で確実なチームワークが重要です。そしてコミュニケーションやチームで働く技術は、医療におけるエラーを減らすために必要であると言われていています。今回は、実際に手術室で取り組んでいる安全対策についてご紹介します。

誤認防止 ～名前・手術部位の確認～

多くの患者さんが手術を受けられる毎日、全身のあらゆる部位を対象とした様々な診療科の手術が予定されています。中でも手術を実施するにあたり、患者さんのお名前、手術部位の確認は不可欠なものです。「確認の際には、複数回、複数人、複数の方法で患者さん自身または家族も含めて患者氏名・手術部位を確認しなければならない」と手術看護業務基準に述べられています。当センターでは、麻酔科医師による術前診察時、術前訪問時、手術室入室時、手術開始前に執刀医も加わりお名前と手術部位の確認を行っています。緊張や不安もある中、患者さんに名前を名乗って頂き誤認防止に取り組んでいます。

手術する場所は
こちらですか。



チームワークを高めるために ～タイムアウト～

タイムアウトとは、ある時点で一時全ての作業を中止し、今回の手術に関する内容について確認することをいいます。執刀医がリーダーシップをとり、その開始を宣言することで、手術室にいる全員が手を止めて確認を行いチームのパフォーマンスを高め、より安全に手術を進める時間を確保します。



タイムアウト中の様子

安心できる環境を目指して ～笑顔と確かな技術～

手術を受けられる高齢の患者さんも少なくありません。緊張高まる手術室入室の際には笑顔で患者さんをお迎えし、少しでも落ち着ける環境を提供できるよう心がけています。特に患者さんの治癒力を高めるためにも、体温管理は重要です。麻酔から意識が戻り、身体の機能が順調に回復しているか、苦痛は和らいでいるかを確認しながら、医療チームで見守ります。また長時間の手術では、患者さんの身体への負担は大きいものです。手術創だけでなく皮膚や関節の痛み、チューブ類の固定なども確認しながら病棟看護師の術後ケアへ繋いでいます。